

○3月試験に向けて追い込みをかけている方へ（予想公開模試受験の心構えや復習について）

試験までの日数を数えて不安になったり焦りを感じたりしている時期かなと思います。限られた時間の中で、少しでも得点力を上げるために、過去問と教科書の反復をして、覚えるべきものは覚え、問題を解く流れに悩まず手が動くよう演習を繰り返しましょう。

また、TACでは予想全国公開模試を行います。当日のスケジュール感や時間配分、緊張感など、過去問ではなかなか味わえないものがあるはずなので、可能であれば、本試験時と同様に準備をし、本試験同様の状態で臨んでください。

模試だけでなく、過去問を解いた際も同様ですが、解いたら解きっぱなしで点数だけ確認してお終いではなく、間違えた問題、解けなかった問題はきちんと復習します。

よくある話ですが、難易度の高い問題を間違えることよりも、解き方は合っているのに『 $\times 3$ や $\sqrt{3}$ を忘れていた』のような簡単なケアレスミスの方が試験においては重大です。

模試や過去問演習でしてしまった簡単な計算間違いやケアレスミスは、本試験で繰り返さないよう、しっかりと対策を講じましょう。

試験が近くなると、どうしてもできないこと、細かい内容が気になってしまい、違う教科書を買ってみたり、違う勉強法に挑戦したりしてしまいます。

結局6割取れば合格なので、自身が積み重ねてきた『いまできること』を信じて、地道に学習を続けるのが一番かなと思います。

○8月試験に向けて学習を進めている方へ（これからの学習の進め方について）

理論の学習を終え、機械に入っている方や機械の終わりが見えている方もちらほらいらっしゃる時期かなと思います。

電験三種の内容は、基本的に理論で学習した内容がベースとなっています。なので、機械や電力で『理論』のコンデンサ、電磁力、回路計算の知識が必要となってきます。

理論の内容で疑問に思うものが出てきたときには、すぐに理論の教科書を読み返す癖をつけておくと便利です。

電験三種は科目ごとに内容が違うため、考え方や問題への対応の仕方も異なります。機械は範囲が広く、出題傾向も多種多様なため、合格点が取れるようになるまで時間がかかります。

特に四機では、同じ内容なのに式は違うなど、混乱する場面が多くあります。それぞれの範囲の違いを明確にし、いつどこで使う公式なのか、知識の整理をしておくことが大切です。

四機の基本はやはり回路計算なので、回路をしっかりと覚え、回路計算が苦手であれば、理論に戻って基礎からしっかりと計算力を培いましょう。